

平成19年度 日本物理療法学会 定期総会資料

14.Oct.2007 Fukuoka Hakata

1. 会長挨拶

- ・今年度より、会長・事務局が移動したことを報告された。

2. 事務局報告

報告事項

1. 会員動向（平成19年10月11日 現在）

<一般会員> 313名

平成19年度分納入者 118名（うち新入会：16名）

平成18年度分納入者 150名

平成17年度分納入者 181名

平成16年度分納入者 189名

学生 0名

平成19年度 総振込口数 174口（複数年分振込 45名を含む）

予算案上 202口（複数口入金含）

<賛助会員> 13社

平成19年度分納入会社 3社（そのうち2社が2口振込）

審議事項

1. 平成18年度決算

- ・承認された。

2. 平成19年度予算案・事業案

① 新執行部の報告について

② 予算案について

- ・第1回評議委員にて、雑費への予算枠の拡大。繰越金1,110,362円のうち、110,362円を雑費として計上したことを報告し、承認された。

③ 会員管理業務および年会費収集方法の検討について

- ・HP上で入金を促すアナウンスメントを行う（内田賢一先生）

④ 賛助会員の年会費を、現行30,000円から50,000円へ変更することについて

- ・現在、3社/13社の賛助会員の納入状況であるので、金額を上げることで、さらに賛助からの納入が少なくなる可能性が考えられる。A3万円 B5万円 C10万円などのランク付けをしたらどうかと提案された。（藤原孝之先生）

- ・定款の記載によると、会費の納入が1口以上となっているので、定款との整合性や、定款の変更が難しいことを考えると、金額の変更は難しいのではないかと報告された。（日高正巳先生）

- ・まずは、賛助会員13社から会費を納入してもらえるような対策を考え、その後、口数などを検討することが提案され、承認された。（濱出茂治先生）

⑤ 日本物理療法学会主導の物理療法に関する多施設共同研究による基礎および臨床物理療法データの集積について

- ・ JAPTEDの進行状況についての説明を求められた。(藤原孝之先生)
- ・ 今年度より、一部で進行しており、日本理学療法士協会の11月の理事会で承認されるのではないかと回答された。(鈴木重行先生)
- ・ 多施設共同研究を行う際の、物理療法学会と物理療法専門部会との関係はどうなっているのか説明を求められた。(鈴木重行先生)
- ・ 専門部会の中でも、共同研究に協力しやすい部会であるので、物理療法学会のバックアップを受けながら、積極的に進めていく方向であると回答された。(日高正巳先生)

⑥ 企業および養成校からの基金助成について

- ・ 企業から研究助成の声がかかったと報告された。(川村博文会長)
- ・ 賛助会員(企業)に依存してばかりいてはいけないのではないか。教育職についている会員がいるので、それぞれの学校からも同様な協力をしていくことも考えていかなければいけないと提案された。(濱出茂治先生)

⑦ EPA Network Meetingについて

- ・ 現状報告がなされ、今後検討していく方針となった。

5. 平成20年度事業計画

① 日本物理療法学会学術集会2008について

大会長 山本双一 先生(高知リハビリテーション学院)

- ・ 平成20年10月4~5日、高知県での開催が決定されたことが報告された。

6. その他

① 大学院生の会員扱いについて

- ・ 大学院生は、学生会員になるのか、一般会員になるのか、議題が挙げられた。(日高正巳先生)
- ・ 日本理学療法士協会では、大学院生は、一般会員として扱っていると報告された。(鈴木重行先生)
- ・ 学会の会員数を増やすために、学生書のコピーを提出することを条件とし、大学院生は、学生会員として扱うことが承認された。尚、今後、日本理学療法士協会との整合性も考慮に入れ、運営していく必要があると提案された。